

# 奥州市未来羅針盤図

市が目指すまちの開発デザイン

## 全市展開

### 1 地域医療奥州市モデルプロジェクト

地域全体をカバーするネットワーク型による地域医療体制の構築

### 2 未来型公共交通プロジェクト

利便性の高い持続可能な公共交通システムの構築

### 3 小さな拠点づくりプロジェクト

地域住民・民間組織・市の協働による持続可能な生活圏の維持

## 奥州湖周辺エリアプロジェクト

アウトドアフィールド・アクティビティの開拓と人材育成、民間企業との連携強化

### 奥州湖周辺



## 小さな拠点づくり(衣川)プロジェクト

協働による持続可能な生活圏の維持(見守り電球を使った高齢者の見守り、民生委員活動にタブレット活用など)

### 衣川地域



## 水沢市街地エリアプロジェクト

メイプルリニューアル、水沢公園リニューアル、駅前周辺の賑わいの創出

### 水沢市街地



## 江刺市街地エリアプロジェクト

誘致企業雇用者対策、官民連携による市有地有効活用

### 江刺市街地



## 小さな拠点づくり(伊手)プロジェクト

協働による持続可能な生活圏の維持(旧伊手小学校を活用した拠点づくり)

### 伊手地域



## 水沢江刺駅周辺エリアプロジェクト

南岩手交流プラザリニューアル、駅周辺開発、鎗物産業と連携した情報発信の強化

### 水沢江刺駅周辺



## 前沢市街地エリアプロジェクト

駅周辺の生活環境の充実、デジタル技術を活用した利便性の高い公共交通システムの導入、未利用市有地等の利活用の検討

### 前沢市街地



# 地域医療奥州市モデルプロジェクト

## 狙い

【地域医療対策】 限りある医療資源を効率的に活用し、地域全体をカバーするネットワーク型による地域医療体制の構築  
 【周産期支援】 関係機関との連携、各種助成制度の実施安心して分娩できる環境を構築

### 目標値

在宅での生活が可能と  
考えている人の割合

H29	79.1%
R3	79.0%



R8	63.7%
----	-------



### 開発コンセプト

- 新医療センター建設（医療、子育て、ヘルスケア）
- 地域包括ケアシステムの推進
- 市立医療施設の経営改善

### 他の施策との戦略的連携

【公共交通】 通院しやすい公共交通システムの構築

### ◆地域包括ケアシステムの推進

訪問診療  
(モバイルクリニックによる遠隔医療含む)



市立病院

訪問看護

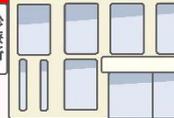
介護サービス

介護施設

### ◆へき地医療の提供

地区センター

診療所



市立診療所



モバイルクリニック  
による遠隔医療

### 企業・団体との連携

団体	奥州医師会
団体	奥州歯科医師会

◆医師の働き方改革  
◆持続可能な病院経営

◆医療施設間における  
機能分化と相互連携

### ◆DXの推進



医療情報の共有・  
ネットワーク化

- ◆急性期医療から回復期医療へのシフト
- ◆母子・子育て支援機能
- ◆ヘルスケア機能

新医療センター

民間医療施設

民間産婦人科



### ◆周産期サポート

救急医療  
高度医療  
出産



県立病院  
(広域)



宿泊支援



移動支援



妊婦・  
胎児情報

妊婦健診

# 小さな拠点づくりモデルプロジェクト

**狙い** 【小さな拠点】地域住民の合意形成（地域デザイン等）のもと、住民が主体となって事業者、市と連携・役割分担した、日常生活に必要な機能・サービスの集約による地域資源を活かした持続可能な生活圏の維持

地域住民による活動のステップ

①地域住民による「地域デザイン」の策定

②地域住民主体の地域運営組織の形成

③生活サービスの維持確保

④仕事・収入の確保

## モデル1 衣川地域生活圏

地域と市の協働で生活サービス等事業をモデル的に実施

- ・地域でアンケート調査やワークショップを実施
- ・「衣川地域の将来ビジョン」をR2年度に策定

R4年度に衣川地域振興会連絡会を運営組織として「小さな拠点づくりモデル事業」のモデル地区指定

地域と市の協働でモデル事業を実施

高齢者デジタルサポーターによるスマホ活用の推進



地域おこし協力隊による地域資源活用



住民との話し合いにより、プロジェクトの「狙い」に即したモデル事業を実施



民生委員活動にタブレットを活用



見守り電球を使った高齢者の見守り



モバイルクリニックで遠隔診療を実施



企業・団体との連携、地域資源

宿泊施設	(株)リバーホテルズ&リゾート
スキー場	(株)北日本リゾート
キャンプ場	ふるさと自然塾

目標値

小さな拠点数（事業に取り組んだ地域等の数）

R5 1 箇所 → R8 10 箇所

## モデル2 伊手地域生活圏

住民主体による地域資源を活用した地域づくり

- ・振興会が地域資源活用特別プロジェクトを立ち上げ
- ・検討チームによる住民アンケートや勉強会を実施

- ・地域住民によるワークショップを経て「基本構想」を策定
- ・旧伊手小学校を複合施設に利活用  
1階に伊手地区センターを移転  
2階を地域運営組織が活用

旧伊手小学校を活用した複合施設を拠点に地域資源を活かした生業の創出、地域交流を促進

農福連携の推進・農作物の加工



体験プログラムの構築  
グリーンツーリズムへの対応



キャンプや野外イベントの開催



安らぎの場  
ブックカフェの開設



企業・団体との連携、地域資源

農業生産	果樹園、産直施設
地域資源	金命水、キャンプ
自然景勝地	阿原山高原
郷土芸能	鹿踊り